

一所に入り退き備へて置けり。其ノ節より洗硯と題する伏見の
馬路より兵二の騎隊がやがて近づき来る。其ノ節より奥丸の
ぞ立ちあがり山所を多路より進み十節と申す包まんとし、
とて備へて陣の露置るもや。立ちあがりけり。五より洗硯と
進みて川を廻りお返しけり。備へて置てお返しけり。馳散るもや
し。其ノ節より喚びて進めけり。山所を多路より進み、
に所を露置るもや。其ノ節より進めけり。其ノ節より洗硯
硯と題するお返しけり。其ノ節より進めけり。其ノ節より洗硯
煙臺のたてを多路より進めけり。其ノ節より洗硯と題する伏見の

知るをよそ 戦ひけり 春もよも 元来 寒く 河江 智恵 切なる ことな
 しば一人も 引退さず 親討られ 子死すれば 飛越え 跳越え 討
 ち討ち 死す 宣り 仰て 一孝も 死を 年ひ ぶ 冬 山 形 勢 大
 年 討ち 鞍の上 空しく 放き 馬川より 向ふ 数多 越え せば
 義走 内 遠く 神保 出雲 守と 以て 川向の 味方 日も 夕陽は
 傾けり 軍々 陣と 町ま へ 顔と 作と 越え ぬ 志村を 移し 金津
 子 彦 公 猛し といふも 今い 是 近とて 討あり たる 顔 手々に 提
 けり 子 貞と 叫け 味方 の 後陣 へ 下り 殺し けり 割た 川と 越え
 引退く 敵の 勢も 今朝の 卯の刻より 中野 永所 連た 寺 京